

R5 年度 全国学力・学習状況調査の結果

串本町教育委員会

全国学力・学習状況調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

文部科学省からは、本調査の結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である、ということが示されています。

串本町教育委員会、各学校におきましては、調査結果の分析検証を行い、その特徴や課題を把握し、各教員の指導方法の改善や各児童生徒の学習の改善に努めてまいります。

調査内容

- 実施日 令和5年4月18日（火曜日）
- 実施対象 小学校第6学年（串本町内9校 103名）
中学校第3学年（串本町内4校 78名）
- 実施教科 小学校 国語、算数
中学校 国語、数学、英語
- 質問紙調査
 - ・児童生徒の「主体的に取り組む態度」や生活の様子については、主にこの質問紙調査にて見ることとしています。
 - ・指導方法に関する取組や教育条件整備等、学校に関する質問紙調査もあります。

教科に関する調査の平均正答率（％）

	小学校 6 年生		中学校 3 年生		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国	67.2	62.5	69.8	51	45.6
和歌山県	68	63	67	50	44
串本町	67	64	65	47	36

教科に関する調査の概要（小学校）

【国語】

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることができるかどうかをみる問題、原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題については全国平均を上回る正解率でした。しかし、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。

また、全体的に無回答率は低く書こうとする意欲は見られましたが、記述式の問題において条件に合わせて書く力に課題が見られました。

【算数】

高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題、（ ）を用いた式、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題については全国平均を上回る正解率でした。しかし、百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題や、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。

教科に関する調査の概要（中学校）

【国語】

場歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題や、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題は、全国平均と同程度または上回る正解率でした。しかし、目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題、意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題、観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題に課題が見られました。

【数学】

反比例の意味を理解しているかどうかをみる問題、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題は、全国平均を上回る正解率でした。しかし、四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題、自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題に課題が見られました。

また、説明する問題等記述式問題の正答率は低く、無回答率も高かったです。

【英語】

情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる問題、情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題、文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題等多数の問題の正答率が全国平均と比べて低く、基礎基本の定着から課題が見られました。

児童質問紙調査の概要（小学校）

○自分には、よいところがあると思う。

○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。

▲学校で、授業中に自分で調べる場面や発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、あまり使っていない。

▲読書の時間が少ない。

生徒質問紙調査の概要（中学校）

- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- 友達関係に満足している。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ▲学校で、授業中に自分で調べる場面や発表する場面で、P C・タブレットなどのI C T機器を、あまり使っていない。
- ▲学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強時間が少ない。

串本町としての取組として

串本町教育委員会として、「わかる」を大事にした授業を実施し、基礎基本の定着をはかるとともに自分の考えを表現できる授業に取り組みます。そのために、

- ・継続して学校訪問や研究授業等で指導助言を行い、各先生方の授業力・指導力向上に努めます。
- また、紀南教育事務所とも連携し、より多角的な視点から指導助言を行います。
- ・児童生徒質問紙の結果にも焦点をあて、読書活動の推奨や家庭学習への取組の工夫についても考えていきます。
- ・I C Tの活用を推進するため、研修会や実技講習会を実施し、1人1台端末の有効的な活用場面を紹介・情報交流します。
- ・学力向上部会を設立し、各校から学校の中心となっている先生（教頭・教務主任・研究主任等）で各校の学力向上の取組について情報交換したり、学力向上に関する研修会を行い、各校でも報告・研修の時間をとり、町全体で学力向上について考えていきます。
- ・若手教員育成プログラムをより一層充実させるため、研究授業を実施し、授業参観を通じて「授業」の在り方について協議を行います。
- ・和歌山県主催のコアティーチャー養成・活用事業に串本町の教員を派遣し、学力向上において成果をあげている秋田県など他府県の取組について、現地で学んできたことを伝達講習することで、各校の指導の参考となるよう努めていきます。